

市史講座第7回ミニレポート

平成24年1月14日(土) 第7回 龍蛇と神在祭 海への信仰—寄物信仰—(講師: 島根県教育庁文化財課 品川知彦先生)が開かれました。



品川先生は冒頭で、ハレの日(特別な日)の食事に海物を食べる風習があることは、海で浄める、祓う、という意識の表れで、そこから人々の海への信仰を見ることができると話されました。

そして、お忌荒れに漂着する龍蛇(セグロウミヘビ)は竜宮からの使者、異国からの献上物、神々の先導役の性格を持ち、火伏せ、水難予防、商売繁盛などの信仰を有して、海から寄り来るもの、御蔭あるもの(寄物信仰、寄神信仰)、として捉えられ、お忌荒れの頃の神在祭はその霊威力を受け取る神事でもあると、龍蛇と神在祭の関係を様々な文献、論考を紹介しつつ解説されました。